

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまぎり」		
所在地	長崎県南島原市深江町丙357		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 25 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 4 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 28 年 3 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーにし、地元でとれる旬の食材を収穫し美味しく食べ日光をたくさん浴び体内時間を充実させる。掃除や洗濯物を干したりたんだり料理の下ごしらえを職員と一緒にされています。ホーム内の畑で野菜を作り、草取り、手入れ、収穫まで楽しむことが出来る。地域のイベント、ホームの行事、風船バレー大会への参加また中学生の「福祉体験学習」の受け入、入居者との交流の場としている。家族の方の面会時間の制限を設けず夜間でも寝顔を見て帰られることもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、理念「毎日笑顔で過す」を基に、朝の申し送り時に「職員が楽しまない入居者は笑顔にならない」と話し、職員全員で介護実践に取り組まれている。入居者と一緒に、庭の畑で作った野菜や契約農家の畑で旬の野菜を収穫し、その野菜を使用する事で食事を楽しめるよう努めている。また、家族の方の面会が頻繁にあり、時には一緒に食事をしたり、家族や知り合いの差し入れ(肉・魚・干し椎茸・いちご等)がある時は、1品料理を増やして食事を提供している。施設長は、3年前に「看取りと重度化対応マニュアル」を基に看取りに関する指針を作り、入居者のサマリー・入居者の情報と共に職員全員で共有し、重度化に伴い本人・家族に説明し、医療機関と連携を計り家族と共に看取りを取組んでいる。看取られた後のケアにも対応し、家族の安心に繋げており、ますます期待の持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

グループホーム「あまぎり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」をモットーにし入居者、職員の笑顔をよく見られる様にしている。	理念「毎日笑顔で過ごす」をリビングに掲げ、理念を基に朝の申し送りの時「職員が楽しめない入居者が笑顔にならない」と話をされ、職員全員で共有し介護実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の高齢者の方との交流や地域のイベント、スーパーへの買い物。	近隣の住民と近所付き合いがあり、毎年中学生の福祉体験を受け入れたり、町の産業祭に見学に連れて行くなど、地域と積極的に交流している事が窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	深江中学校の生徒の「福祉体験学習」受け入れ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活、入居状況の報告お便りにて会議内容を家庭へ報告 時には入居者も会議に参加。	2ヶ月に1回、運営推進会議が行われており、行政・他の地区自治会長・家族・市議員・施設長・職員2名が参加されている。入居者の状態や、行事の報告がされており、会議内容を家庭に知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長崎県認知症GH協議会の役員、島原半島連絡協議会に加入しホーム長会議や風船バレー大会の実行委員長を務めた。	市保健課とマイナンバーの取り扱いの事や、生活保護の方の事で連絡を取り合い相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当時から「拘束0廃止」に取り組んでいる。	玄関の施錠やセンサー等を使用せず、外へ出て行く気配には見守り対応で支援に努めている。帰宅願望の方には、付き添って外出したり、ドライブに連れて行って納得してもらうように支援するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護に拒否があるときは職員を素早く交代している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援なし。(研修参加あり)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、入所予約時、入所の時説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、電話、LINE等でコミュニケーション またお便りや個々の写真集を発行。	家族面会時に、要望(衣服の調節・刺身やステーキを持ってこられ、食べさせてもらいたい等)があった場合は、申し送りを日誌に記録し、職員間で共有して支援に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝のミーティングの時に意見交換。問題発生時緊急会議。	希望休が取れるように配慮しており、長年勤務している職員が多くいる。また、職員会議や、朝のミーティングの時に、職員から出された意見(入居者のベットに手すりを付けてもらいたい)を取り入れ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時希望を聞き作成。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島原半島GH連絡協議会本部、南ブロックの研修会へ出来るだけたくさん参加している。外部研修として実践者研修、支援専門員更新研修、マイナンバー制度について。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	風船バレー大会の実行委員長を受け当ホームで景品の包装を行った際、実行委員の方に昼食提供。県協のグループホーム大会の準備等に参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人と話をし希望や要望に沿えるようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初めは家族の方から「面会をしばらくやめときます」といわれますけど「毎日来てください」と話します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、病院、居宅からのサマリーをもとに作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事、したい事を聞き手助けしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いかなる時も家族の意向に沿えるように連絡を密にとる。(最近LINEで写真を送信したり、コメント送信して家族の意向えを確認します。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状、暑中見舞い、「あまぎり」だよりを子供、孫、親戚兄弟知人(申し出のある方)に発送。	一泊や日帰り帰省は家族対応で行ない、自宅で排便や介助の仕方が分からない時は、電話で介助の仕方を知らせたり、職員が自宅に行くなどの帰宅支援を行ない、馴染みの人と場の関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と入浴、日光浴、会話を楽しめるよう支援。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	H27.11.20長期入院にて退所された方の娘さんが野菜の差し入れをしてくださり「たまに遊びに来ていいですかと言われてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを会話の中から見つけ出し笑顔で暮らしていけるように支援。	入居者一人ひとりに合った方法で意向の把握に努めている。風船バレーボール大会に参加することで会話が弾み、次回勝つように練習しようという気持ちになったり、入居者同士仲間意識が芽生えることで、思いの把握に繋がっている事が窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方もなかなか生活歴の把握は難しい。特に外孫が急に同居した場合。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルバイタルチェックや視診、しぐさ~現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会議を開き意向、希望を聞き計画作成。	アセスメントやサマリーなどで暫定介護計画を立て担当者会議を行い、本人・家族の要望を聞き、職員と話し合いケアマネージャーがプランを立て、本人・家族に説明して同意をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアプランチェック表、看護記録、連携表により検討。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望、特変時素早く対応。 外泊希望時送迎困難時職員で行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑まで出かけ野菜の収穫したり、地域のお祭りや催しに出かける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診前後の報告をし、家族の要望や希望を先生に伝える。	入所の時に、希望のかかりつけ医を聞き、遠方の方は、協力医に変更してもらっている。家族対応で病院受診を行ない、家族ができない場合は、職員対応で受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護職員の気づきと受診結果を訪問看護師に連絡。 訪問看護師は看護記録に記入する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリーを作成し情報提供。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	H27, 11, 29看取りをしました。 H27, 11, 2 から準備を進め親族の見守りの中息切れしました。「いつか目を覚ますのでは……」と言われてました。	3年前、施設長が「看取りと重度化対応マニュアル」を基に看取りに関する指針を作り、入居者のサマリー・入居者の情報と共に職員全員で共有し、重度化に伴い本人・家族に説明し、医療機関と連携を計りながら家族と共に看取りを取組んでいる。看取られた後のケアにも対応し、家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに従い行動する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練を実施、マニュアルの確認。 近隣の方の協力を得られるようになっている。	避難訓練を火災想定で、夜間に実施している。消防署立ち合いの火災想定避難訓練は、平成28年3月に実施予定である。大村消防学校の消防訓練に職員が参加している。備蓄品は準備してあるが、備蓄品のリストが無い。	防災マニュアルは南島原市南ブロックGH協議会ホーム長会議において、災害協定を結んで作成する予定であり、作成後、防災訓練の実施を期待したい。また、備蓄品リストの作成と消費期限の記入整備及び管理や、利用者情報一覧のリストに入居者の状態がわかるように(顔・全身)写真の添付を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に応じた言葉かけのなかにも敬意を払った言葉かけをする。(家族のような関係を保てる)	接遇マナーの研修会に参加し、職員間で共有して介護を振り返り、職員同士気付いた時は随時注意して支援に努めている。トイレに入られた時は、ドアやカーテンを閉めて外で待つなどプライバシーに配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日は何食べたい？何したい？の言葉かけで自己決定に導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然「買い物に行きたい」と言われることもあるのでその都度支援。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに応じてます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのおふくろの味を聞き、野菜の皮むきをしていただく、食後食器のかたづけやテーブル拭きをしていただきます。	入居者と一緒に契約農家の畑で、収穫した旬の野菜を食材に使用したり、家族や知り合いの差し入れ(肉・魚・干し椎茸・いちご等)ある時は、1品料理を増やして食事を楽しまれる。テーブル拭きをして手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1500mlを目安とし、無理強いせず飲用していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き施行、夜間は義歯洗浄剤使用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記入表(24時間シートにて記入)把握している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。ドライブに行くときは、なるべく障害者用のトイレのある所に連れて行くようにし、替えのパットを持って行くように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールに牛乳、ヨーグルト、野菜中心の食事提供排便表にてコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日置きの入浴。 気の合う人と入浴を楽しんでいただく。 夏場は毎日シャワー浴、失禁時シャワー浴施行。	2日に1回、午後から入浴支援を行なっている。入浴拒否者には、時間をずらしたり、職員を変えて声掛けし、入浴してもらうよう配慮している。重度の方は2人対応で行い、脱衣場にチェアを置いて衣服の着脱がしやすいように支援している事が窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団を日光に当てたり、シーツを洗濯する。 季節によりシーツの種類を変える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに処方されてる薬の種類を把握し確認する。 各個人の処方箋を個人ファイルし必要時はすぐ確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を手伝って貰いながら掃除、洗濯物干をしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅で法事があり外出されてます。近くのスーパー、衣料品店への買い物支援。	天気の良い日は、近くのスーパーに買い物に出かけたり、ドライブに花見や地域のイベントの見学に行ったりして、外出支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、小遣い帳に記入し毎月確認していただいています。 イベント、買い物の時に自分で支払いしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「あまざり」だよりと一人ひとりの様子を写真とコメントを書いたお便りを発送。 電話の取次もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁に写真の展示、洗面所に季節の花や観葉植物を置いています。	玄関の前に犬2匹と猫1匹を飼われ、玄関には金魚を飼い、入居者の癒しになっている。 天井が高く、廊下は広い。壁には、行事の様子が写真でわかるように掲示されている。南向きの娛樂室で、食事の後に日向ぼっこをして、談話をする姿や、ソファに座ってテレビを見て思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり会話を楽しまれます。置の部屋(娛樂室)ではお昼寝や日光浴を楽しまれます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具(ベットも含む)を持ち込まれ使用。またテレビも使用。	居室は広く、床には防火対応の絨毯が敷かれて、足触りが好い。自宅で使用していたベットや布団など持ち込まれたり、演歌をカセットテープで聞き、趣味を楽しむなど、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	3部屋にトイレがあり昼夜問わず使用されている。一人ひとりに合わせた手すりをつけてます。		